

## 第15回宇宙科学・探査部会 議事要旨

1. 日時：平成26年8月27日（水） 16：00－18：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井部会長、薬師寺部会長代理、家森委員、小野田委員、櫻井委員、田近委員、永原委員、山川委員、山崎委員

(2) 事務局

中村宇宙戦略室審議官、深井宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査プロジェクトの現状について

事務局から参考資料1、2に基づき、基本政策部会の中間とりまとめについて説明した後、宇宙航空研究開発機構(JAXA)から、資料1に基づき説明があった。

説明の後、以下のような意見があった。

○X線天文衛星ASTRO-Hの打上げと次世代赤外線天文衛星SPICAの打上げまでの間が10年近くになるが、これはプロジェクトにかかわる者が一世代交代する期間と同等である。指導者も含め人材を継続していくことが重要。必要な人材の確保、教育、知見の引き継ぎについての議論が必要。

○ミッションのスパンが10年、20年となると、その間に科学的成果が出ないという問題が生じる。それを補う観点で小型ミッションを高頻度で実施することが重要。

○深宇宙探査、惑星探査は工学要素の大きいミッションであるが、月、火星、それ以遠の惑星または小惑星のいずれへ向かうのかといったサイエンスの観点も考慮して、将来どう取り組んでいくのか判断しなければならない。

○科学衛星に空白を生じさせず、また、コミュニティを維持していくため、はやぶさ2、ASTRO-Hの次に打上げる中型ミッションを早い段階で検討すべき。

(2) その他について

JAXAから、資料2に基づき、ASTRO-H相乗り衛星の選定結果について報告を受けた。説明の後、以下のような質問等があった。(以下、○質問・意見等、●JAXAの回答)

○有償枠の位置づけはどのようなものか。

●有償枠は、打上げ機会を広く提供し、マーケットを開拓する効果を企図している。

以 上